

## 為替週間展望 = ドル円はもみ合いとなり、一進一退の動きか

[4月20日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月13日～4月17日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	108.48	108.54(13)	106.93(15)	107.75	-0.72
ユーロ・ドル	1.0930	1.0991(15)	1.0817(16)	1.0850	-0.0087
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	19,897.26	+398.76	日本10年債利回り	0.025	+0.007
ダウ平均株価	23,537.68	-181.69	米10年債利回り	0.627	-0.092
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 20日 NZ第1四半期消費者物価  
英4月ライトムーブ住宅価格  
日本3月貿易収支  
独3月生産者物価指数  
ユーロ圏2月経常収支  
ユーロ圏2月貿易収支  
カナダ2月卸売上高
- 21日 英3月雇用統計  
独4月ZEW景況感指数  
カナダ2月小売売上高  
米3月中古住宅販売件数
- 22日 英3月消費者物価指数、英3月生産者物価指数、英3月小売物価指数  
米MBA住宅ローン申請件数  
カナダ3月消費者物価指数  
米2月住宅価格指数
- 23日 英3月小売売上高  
米新規失業保険申請件数  
米3月新築住宅販売件数
- 24日 日本3月消費者物価指数  
独4月ifo景況感指数  
米3月耐久財受注  
米4月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】新型コロナウイルスの影響により株式市場は大荒れなものの、為替市場はまずまず落ち着きを見せており、株が乱高下しても、極端なリスク回避のドル買いや円買いに傾きにくくなっているとみられる。ドル円は明確な方向感には乏しく、レンジ相場で推移するとした。

【新型コロナウイルスの影響で実体経済の悪化が一段と鮮明に】

15日の米国市場では3月の小売売上高、3月の鉱工業生産、4月のNY連銀製造業景気指数といった経済指標が過去最悪、ないしは記録的な低水準となるなど、新型コロナウイルスの感染拡大により経済活動に大きな影響が出ている。米地区連銀経済報告(ページブック)でも「経済活動は急速に縮小」としている。市場の想定以上に経済指標の結果が悪かったことであり、投資家心理が悪化して、15日の米国株は大幅安となった。

16日には4月のフィラデルフィア連銀景況指数、3月の米住宅建築許可件数は記録

的な低水準となった。米新規失業保険申請件数（4月5日～4月11日）は524.5件となり、4週間で2200万件に達している。16日の米国株は売りに押された後、下げ渋りを見せた。

トランプ米大統領は15日の記者会見で新型コロナウイルスの感染者数はピークを過ぎたと述べた。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で制限されている経済活動を再開する指針を16日に発表した。感染拡大防止のために3月中旬から厳しい外出制限を実施してきたが、今後は3段階に分けて、経済活動を再開させる。経済活動を再開するか、いつどのように再開するかは各州の州知事が判断するとしている。感染がピークアウトして実際に活動が再開するには慎重な判断が必要とみられ、まだ時間がかかりそうだ。

米国株は9日までの1週間で2600ドル超の上昇となったものの、13日以降は高値圏で伸び悩み一進一退の動きを見せている。日経平均も10日までの1週間で1600円超の上げとなったものの、13日以降は1万9700円台もみ合いとなった。ただ、日本時間の17日の朝方にトランプ米大統領が経済活動の再開の指針を発表すると、米国株価指数先物が時間外取引で急伸びして、NYダウ先物は800ドル超の上げとなり、日経平均も大幅高となった。

このところのドル円はそれほど大きな動きを見せていない。米国株が戻りの途上でもみ合いを見せており、一時期のような弱さはない。米経済指標の悪化は重石となるものの、米国での経済活動再開への期待感もあり、ドル円は方向感を探るような動きとなっている。ドル円は110円を上抜くような力強さはないものの、105円を割り込むような円高にもなりにくい。こうした中、ドル円は一進一退の動きとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、106.00～109.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、20日に日本3月貿易収支、21日に米3月中古住宅販売件数、22日に米MBA住宅ローン申請件数、米2月住宅価格指数、23日に米新規失業保険申請件数、米3月新築住宅販売件数、24日に日本3月消費者物価指数、米3月耐久財受注、米4月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

#### 【ユーロドルは軟調に推移か】

欧州でも15日にドイツが行動制限を一部緩和すると発表しており、オーストリアに続く動きを見せている。感染拡大がピークアウトしたと判断するにはまだ早いとみられるが、これまでに規制が長期化したことで、实体经济への悪影響を緩和したいという意向が働いている。

このところは新興国通貨が売りに押されている。南アランド、メキシコペソ、トルコリラ、ブラジルレアルなどが対ドル、対円で下落している。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、これらの国々の経済は先進国と比べて一段と悪化する可能性が高い上、リスク回避のドル買いの面もある。ドルは対新興国通貨だけでなく、対円や対ユーロなど主要国の通貨に対しても堅調な動きを見せている。

ユーロドルは4月6日の1.07台後半から、15日には1.09台後半まで上昇したものの、戻りの動きは一服している。一部の国で行動制限の緩和が実行される見込みながらも、一段の景気の悪化は避けられず、ユーロを積極的に買い進む理由に乏しい。このため、ユーロドルは戻り一服から、軟調に推移するとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0600～1.1000ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、20日にNZ第1四半期消費者物価、英4月ライトムーブ住宅価格、独3月生産者物価指数、ユーロ圏2月経常収支、ユーロ圏2月貿易収支、カナダ2月卸売上高、21日に英3月雇用統計、独4月ZEW景況感指数、カナダ2月小売売上高、22日に英3月消費者物価指数、英3月生産者物価指数、英3月小売物価指数、カナダ3月消費者物価指数、23日に英3月小売売上高、24日に独4月ifo景況感指数などがある。

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。